

第3学年*組 平成*年*月*日 (* 第*時限		国語科学習指導案 場所 **教室	指導者 小澤 典子						
育成する国語の能力	書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする								
単元名	表現の実践（一）－通信・案内・伝達－								
単元目標	○書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。 (関心・意欲・態度) ○書いた文章を互いに読み合って批評して、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。 (書く能力) ○国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などについて理解を深めることができる。 (知識・理解) ([伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]「国語表現」内容の(1)の力)								
単元の評価規準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>書く能力</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ①積極的に互いの文章を読み合い、相手の文章の良い点を探そうとしている。 ②相互評価を通して得たことを、論理の構成や展開を工夫して書くことに生かそうとしている。 </td><td> ①互いの文章を読んで、良い点を指摘している。 ②相互評価を通して得たことを、論理の構成や展開を工夫して書くことに生かしている。 </td><td> ①原稿用紙、漢字の使用及び書き言葉など、文章表現の基本を身に付けて、読み手を意識した文章を書いている。 </td></tr> </tbody> </table>	関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解	①積極的に互いの文章を読み合い、相手の文章の良い点を探そうとしている。 ②相互評価を通して得たことを、論理の構成や展開を工夫して書くことに生かそうとしている。	①互いの文章を読んで、良い点を指摘している。 ②相互評価を通して得たことを、論理の構成や展開を工夫して書くことに生かしている。	①原稿用紙、漢字の使用及び書き言葉など、文章表現の基本を身に付けて、読み手を意識した文章を書いている。		
関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解							
①積極的に互いの文章を読み合い、相手の文章の良い点を探そうとしている。 ②相互評価を通して得たことを、論理の構成や展開を工夫して書くことに生かそうとしている。	①互いの文章を読んで、良い点を指摘している。 ②相互評価を通して得たことを、論理の構成や展開を工夫して書くことに生かしている。	①原稿用紙、漢字の使用及び書き言葉など、文章表現の基本を身に付けて、読み手を意識した文章を書いている。							
取り上げる言語活動	グループごとのお互いの文章を交換して「読み合う」活動								
題材（教材）	国語表現ワークノート（第一学習社）								
単元（教材）について	(1) 生徒観：本校では、各学年で小論文模試を実施している。小論文模試前に、付属のワークシートを用いて構想を練ってから文章を書くという練習をするが、構想段階からどうしても書き進められない生徒や、文章を書き始めると、構想から外れて文章を書き進めていく、どのように文章をまとめていかばいいかわからなくなっていく生徒もいる。また、「国語表現Ⅰ」を選択している生徒に「クラスマッチ後、感想文を書く」という課題を提示したところ、書き始めるまでに時間がかかったり、時間内に終わらない生徒もいた。記述内容は、事実をただ羅列しただけの文章に、「楽しかった」程度の感想を付け足した文章が多く、まとめとして今後にどうつなげるかについて具体的に書くことができたのは、クラスの2～3割である。生徒の意識調査によると、書くことに関する自分の課題として最も挙げられたものは、「文章構成」(50%)である。 (2) 教材観：論理の構成や展開について、段階的に学習することに適している。 (3) 指導観：文章構成の型に慣れさせるため、いくつかの題で構想を練る練習を行い、内容の良かった項目を評価し合うことで、「書きたい、書ける」という意欲を喚起し、文章の三段構成の型の定着を図る。文章を書く際は、読み手を意識して書く習慣を付けていく。その後400～600字の文章を書き、グループごとのお互いの文章を交換し、相互評価するという「読み合う」活動を進める。教科担当によるコメント書きの繰り返しは継続して行い、他人の文章の良い点を探すとともに、自分の文章の誤字脱字や、話し言葉の使用などの誤りにも気付くようにさせる。								
指導計画 (学習計画)	主な学習活動 1～8時（導入） 国語表現ワークノートを用いて、構想を練る練習をする。さらに、各課題の生徒が書いた文章をパソコンで入力してまとめたものを配布し、コメント書きをする。なお、各課題は以下の通りである。 ① 国語表現ワークノート⑯材料を集める。 「好きな季節」に関して、三点法を用いて考えを深めていく。 ② 国語表現ワークノート⑯主題をまとめ	主な評価及び指導の手立て ○積極的に互いの文章を読み合い、相手の文章の良い点を探そうとしている。 (関・意・態①) ○互いの文章を注意深く読み、良い点を指摘している。 (書①) <机間指導、ワークノートの確認> 【指導の手立て】 1 まずは自分で発想を広げさせるため、ワークノートを埋める際には、互いに話をせず各自で課題に向き合うよう指示す							

<p>る。</p> <p>以下の3つの題目で文章を書くとして、それぞれの主題文を書く。</p> <p>「好きな季節」「あいさつの意味」「私の友人観」</p> <p>③ 国語表現ワークノート⑩組み立てを考える。</p> <p>「あいさつの意味」という題目で三段構成の文章を書くと想定して、構想メモを作る。</p>	<p>る。</p> <p>2 誤字脱字や話し言葉などの誤りを直す際は、初回のみ全員で行い、2回目以降は、コメント書きとともに各自で行う。</p> <p>3 コメント書きを重ねるごとに飽きてしまうことを避けるため、初回は全員に対してコメントを書き、2回目以降は半数の7人を各自が選び、コメントする。</p>
<p>9～12時（展開）</p> <p>教科書の紹介文「作品例・吹奏楽部の紹介」を読み、紹介文の書き方を確認する。その後、学校紹介文についての構想を練り、ワークシートを埋める。それをグループ内で交換、相互評価し合う。なお、学校紹介文についてのワークシートは、「国語表現ワークノート 紹介の文章を書く」を用いる。その後、構想ワークシートに基づいて、学校紹介文を書く。</p>	<p>○相互評価を通して得たことを、論理の構成や展開を工夫して書くことに生かし、読み手の共感を得られる文章にしようとしている。 (関・意・態②)</p> <p>○相互評価を通して得たことを、論理の構成や展開を工夫して書くことに生かし、読み手の共感を得られる文章にしている。 (書②)</p> <p>○原稿用紙や漢字の使い方、書き言葉など文章表現の基本が確実に身に付いた上で、読み手を意識して文章を書いている。 (知①)</p> <p>〈机間指導、ワークシート・紹介文の確認〉</p> <p>【指導の手立て】</p> <p>1 今回より、氏名は伏せるものの生徒直筆のものをコピーして使用するため、興味関心が誰の文章であるかに向き、本来の趣旨と離れないよう、適宜注意する。</p> <p>2 構想段階で指摘された誤りは、文章を書く際に確実に反映させ、構想から逸脱した文章にならないよう、適宜構想ワークシートを見ながら文章を書くよう指示する。</p>
<p>12～14時（発展）</p> <p>構想ワークシートに基づいて、学校紹介文を書く。その後、グループ内で交換、相互評価し合う。</p>	<p>○積極的に互いの文章を読み合い、相手の文章の良い点を探そうとしている。 (関・意・態①)</p> <p>○互いの文章を注意深く読み、良い点を指摘している。 (書①)</p> <p>〈机間指導、評価シート・紹介文の確認〉</p> <p>【指導の手立て】</p> <p>1 評価する際には、指摘箇所を文章のコピーに具体的に書き込むよう指示する。</p>

本時案(第13時)		
本時の目標	○積極的に互いの文章を読み合い、相手の文章の良い点を探そうとしている。 (関・意・態①) ○互いの文章を注意深く読み、良い点を指摘している。 (書①)	
学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 本時の目標を知り、グループに分かれる。(一斉)	○本時の目標を板書する。 ○グループ分けに配慮し、コメントを書きやすい雰囲気作りをする。	
他人の文章の良いところを、具体的に評価しよう。		
2 前時に書いた文章を配付し、ワークシートに基づいて相互評価(1回目)する。	○文章の書き方や原稿用紙の使い方など、基本的な部分が適切かどうかの評価を確実に行えるよう、机間指導しながら適宜アドバイスを加える。さらに、文章に対するコメント書きの際には、自分の判断で記述できるよう、互いに話をせずに取り組ませる。	○積極的に互いの文章を読み合い、相手の文章の良い点を探そうとしている。 (関・意・態①) 〈行動の観察〉
3 各グループに、2回目の文章を配付をして、1回目同様ワークシートに基づいて相互評価(2回目)する。	○引き続きクラス全体が集中して行えるように、手間取っている生徒や集中力の切れた生徒へ声かけを継続する。誤字訂正などの具体的な部分は、書かれた側がすぐに分かって修正できるよう、直接紹介文のコピーに書き込ませる。	
4 最後にもう一度2回分の文章を読み直し、評価が適切だったかどうか見直しをする。	○自分が書いた文章を再度見直し、誤字や話し言葉などの不適切な表現がないか確認するよう促す。	○互いの文章を注意深く読み、良い点を指摘している。 (書①) 〈ワークシートの確認〉
5 ワークシートを提出する。		
6 次回は相互評価を各自に返却し、もう一度自分の文章を見直すことを確認する。	○次回相互評価を返却される前に、各自の文章に関して、評価のワークシート項目に基づき、誤字脱字、段落構成などの直すべき点を考えておくよう指示する。	